

## とっておきの熊野 ふるさとの伝統の技術体験講座 その八 『藁蓑作り』～消えゆく伝統の技を引き継ぐ～ 記録

- 実施日：平成20年3月12日（水）・19日（水）
- 場所：熊野市木本町 紀南ツアーデザインセンター
- 参加者：5名（女性4名・男性1名）
- 講師：熊野市有馬町池川 仲森増穂氏



今回で3年目になる「藁蓑作り」の講座は、今では見ることがなくなった日本の農山村の伝統技術をなんとか残したいという思いから始まりました。講師は今年も仲森増穂さんです。仲森さんのもとに5名の方が集まり、それぞれの思いを胸に始めての藁蓑作りに挑戦されました。



藁蓑作りは藁たたきや縄ないから始めます。昔は夜なべの仕事だったといいます。かつての生活用具を考えると、私達のまわりには藁製品がたくさんあったことがわかります。藁蓑のように着るもの、かぶるもの、履くもの、家の中には敷物として使い、土壁に藁はかかせませんでした。米や卵など物も包みましたし、しめ縄や正月飾りなど、神事やおまつりにも使われる私たちとたいへん関係の深いものです。



工程を進むにつれ、楽しくてはまりそうだという意見や、思ったより重労働で昔の苦労がわかった、今はなんて便利な世の中なのかという感想が聞かれました。



2日目は雨になり室内での作業となりましたが、藁に慣れるにつれて皆さんスピードと集中力が増します。段を繰り返して編みこみ、背の部分をつくります。次に胸当てを作り、背とつなげます。皆で相談した結果、終了時間を一時間延長して満足いくまで作業しました。



「みんな上手で、とてもおもしろく作業させてもらいました。」と仲森さん。仲森さんより参加者一人ずつに『ふるさとの伝統の技術修得認定証』が手渡されました。

藁蓑作りの講座では、日本人と米作りの関係の深さから、藁製品がとても重宝し私たちに大切なものだったこと、また、「作る」こと自体に、脈々と受け継がれる私たちの暮らしの一つを知ることができると思いました。下記は、参加者5名の方の、藁蓑を作り終えての感想です。

- まさか自分が蓑を作れるようになるとはおもわなかった。
- 縄をなうことも初めてで、不思議な体験だった。共同作業が和やかで楽しかった。
- 去年から参加したいと思っていたので感動した。藁蓑の達人になりたい。
- 講師の方がよく、とても楽しくできました。
- ものを作るって楽しい。このような工芸品を残していかななくてはいけないと思い、応募してよかった。大体マスターできたので、後はいかに上手につくるかにつけるのではないかな。忘れないうちにまた作りたい。

ご自宅でもう一着を同時進行で作っておられた方もいて、実際雨の山道を実験で歩いてみたいとおっしゃっていました。皆さんのその後の経過を楽しみに、「藁蓑作り」～消えゆく伝統の技を引き継ぐ～の講座は終了しました。

(記録 小山)

以上

【後日談があります。藁蓑作りの講座中に四日市の方からは是非自分も藁蓑を作りたい、とお問い合わせがありました。講座が始まってしまっていたので今からの参加は難しかったのですが、今回の参加者の方に偶然四日市から来られた方がいて、私が教えましょうか？と申し出ていただきました。先日、両者同意の下連絡をとり合ってください、藁が手に入り次第一緒に藁蓑作りをする予定だと知らせてくださいました。これからも暮らしの伝統技術を引き継ぐ方が増えることを願っています。】